

観察

- － 位置の認識
 - 上／下、中／外、前／後、高い／低い、右／左、近い／遠い、中／外
- － 数量の概念
 - 列の特徴のとおり2つ目と3つ目を並べられる、一つに構築できる
- － 数える
 - 目の前にある物の数を言える（いくつまで？）、頼んだ物を数だけ持ってくる（いくつまで？）
 - ふさわしい数字と数を合わせることが出来る、いくつまで数えられる（10、100、1000、それ以上）
 - 数を昇順または降順に並べられる
- － 数学の能力
 - 時間の計算（物を使って、物を使わずに）
- － さまざまな視点から物の相互の位置を認識する
 - 2つの物を、相互の位置を正しく指示通り、テーブルの上に置く
 - 前／後、右／左
 - 180度回転途中の物を相互の位置を正しく指示通り、完成させる
 - 前／後、右／左
- － 認識（物、絵を使って）
 - もっと高い／低い、もっと大きな／小さな、もっと広い／狭い
 - もっと長い／短い、もっと厚い／薄い
- － 大きさによって物を区別する、合わせる
- － 同じ／違う、の概念を持っている
- － まとまりの認識
- － 図と地の認識
 - 形や色が同じ物を見つけられる
 - まとまりの中で、いくつかの画像のディテールの類似を見つける
 - いくつかの物のディテールの違いを見つける
- － 知覚の安定
 - 図形の中から同じ色の正方形を探せる
 - 物の中から同じ大きさのものを探せる
 - 物の中から同じ形を20探せる
- － 空間の中の位置
 - ひとまとまりの中で同じ方向を向いた物を認識する
 - ひとまとまりの形の中で他と比べて違う位置のものを見つけられる
 - 異なる形の中で、ディテールが同じものを見つけられる
- － 色
 - 色の認識、色の名称、ひとつの物に関する色の認識

認知機能（区別、クラス分け、分離、系列分け、一般化）

区別

- － ひとまとまりの物の中で、関係ないものを特定する
- － ひとまとまりの形の中で、関係ないものを特定する
- － ひとまとまりの言葉の中で、関係ないものを特定する

分離

- － ひとまとまりの物の中で共通の特徴を示す
- － ひとまとまりの形の中で共通の特徴を示す
- － ひとまとまりの言葉の中で共通の特徴を示す

クラス分け

- － 同じ色の物または画像をグループ分けする
- － 同じ形の物または画像をグループ分けする
- － 同じ番号の物または画像をグループ分けする
- － ある決めた特徴で物や画像をグループ分けする

系列分け

- － 2つの同色で異なる大きさの物の中で、大きいものと小さいものを認識する
 - － 2つの異なる色、大きさの物の中で、大きいものと小さいものを認識する
 - － 3つの同じ色の物を大きさの順番で並べる
 - － 3つの異なる色の物を大きさの順番で並べる
 - － 並べられた列にもうひとつの要素を正しい位置に挿入できる
 - － ひとつの物語を整理する
- 2つのシーンで（*画像を使って）、3つのシーンでさらに多くのシーンで、記述されたシーンも一緒に

全面的な随意運動の機能

- － 身体の概要
身体のいろいろな部分ができる、身体のいろいろな部分の位置がわかる
（自分自身の、他人の、絵で）
- － 付随
体に対して
前／後、高い／低い、右／左、近い／遠い、右利き／左利き
- － 動作
身軽な、不調和な、硬い、弛緩した
- － 動かないことが出来る
バランスの取れた姿勢の維持
休憩の調整
一般的に、部分的に
機能の調整
衝動、感動、視覚と運動の調和
紐を結ぶ

ボタンをかける／はずす
留め金を掛ける、はずす
スナップを留める、はずす
悩まないで形を写し取る

－ 空間の関係

2つのリストにある同じ画像を一行につなげる
部分に分かれた図を完成させる

－ リズムを取れる

－ リズムの変化に動きを合わせられる

－ 動くことが出来る

歩く、四つん這いで歩く、腹ばいで這う、座る、足で立ちあがる
階段の昇降、片足でびよんびよん跳ぶ、小さな障害物を飛び越える
走る、跳ぶ、動かないでいる、立ち止まって足を上げる
決められたコースを敏捷に通過する

健全な随意運動の機能

－ 手全体でつかむ

－ 2つの指で物をとる

－ 2つの手の動きを調整する

－ プラスチン（塑型用粘土を扱う）

－ はがすことが出来る

－ まるめることが出来る

－ 筒状に巻くことが出来る

－ 折りたたむことが出来る

－ 簡単な形に切ることが出来る

－ ペンを正しく持つ

－ はめ込むことが出来る

特別な適性

－ ひとつに構築出来る

－ 目の前にいくつの物があるか言える（いくつまで？）

－ 頼んだ数の物を持つてくる事が出来る（いくつまで？）

－ たくさんの同じ物を写し取ることが出来る（いくつまで？）

－ ふさわしい数字と量を合わせることが出来る

－ 数を数えることが出来る。いくつまで（10、100、1000、それ以上）

－ 時間の計算が出来る（物を使って、物を使わずに）

－ 数を昇順または降順に並べられる

－ ものを動かさないで足し算が出来る

－ ものを動かして足し算が出来る

－ ものを動かさないで引き算が出来る

－ ものを動かして引き算が出来る

- － 掛け算（九九）が出来る
- － 一桁の掛け算が出来る
- － 二桁以上の掛け算が出来る
- － 一桁の割り算が出来る
- － 二桁以上の割り算が出来る
- － 四則演算を使うことが出来る
- － 幾何の要素
 - 2つの点を以下のように結合する
 - （カーブを描いて、直線で、破線で、2本の線のどちらが短いかわかる）
- － 直行座標が使える
 - 平面でXYの点を示すことが出来る（*座標軸とは異なるのか不明）
 - どの象限で？ (X,Y)のデータから平面に点を打てる
 - 座標軸でXYの点を示すことが出来る
 - どの象限で？ (X,Y)のデータから座標軸に点を打てる
- － 平面面積
 - 不規則な2つの平面形のうちどちらが広いかわかる
 - 方眼紙面上の2つの図のうち大きいほうがどちらかわかる
 - 格子の寸法の単位を使うことが出来る
- － 測量
- － 測量の主な道具が使える（定規、天秤、時計）
- － その他
 - 2つのうちより長い方を示すことが出来る
 - 2つの同じ断片を示すことが出来る
 - 外周を計算できる
 - 主な幾何図形の面積を計算できる

対人関係の適性

一般的な対人関係適性

- － 人と、さまざまな環境（教育の、団体の、就労の、協会など）それぞれにふさわしい役割について認識する
- － さまざまな環境（教育の、団体の、就労の、協会など）の中で行動する

特殊な対人関係適性

- － 他の役割との関わり
 - 同等な関係
 - 仲間を受け入れる
 - 仲間に受け入れられる
 - 尊重して
 - 喜んで
 - 遊びに参加して
 - 共同作業をして

自由時間に一緒にいて
我慢しながら
からかわれる
恥ずかしがられる
利益の手段として利用される

声のトーンを調整する
何人かの仲間を好む
大人と

大人を怖がる
権力を認識する
観察される
機械的に抵抗する
いつも距離を置いている

- － グループの活動の中で
能動的に参加する
受身でいる
孤立する
模倣の動きをする
活動を企画する
他人を攻撃する
他の活動を始める
- － 別の方法を選択することが出来る
- － 意見を言うことが出来る
- － 簡単な問題を解決する
- － 複雑な問題を解決する
- － 主な仕事を企画できる

認識の適性

- － さまざまな環境（教育の、団体の、就労の、協会など）の特徴を認識する
- － さまざまな環境（教育の、団体の、就労の、協会など）のルールを認識する
- － さまざまな環境（教育の、団体の、就労の、協会など）のルールを守る
- － 指導やアドバイスに従う
- － 他人の事を認識する
- － 他人の事を敬う
- － （学校、団体、見習い場所）の設備を大切に使う
- － 問題や危険とその結果を認識する
- － 自分で判断する
- － 指示されて判断する
- － 指示の結果、理解する
- － 指示の結果仮説として認める

社会的精神の資質

- － 感情の適切な表現
- － 要求の適切な表現
- － 気がかりや不自由なことの適切な表現
- － 欲求の適切な表現
- － 期待することの適切な表現
- － 仲間と共有する／異なる体験の認識
- － 体験したことの記述
- － 個人的意見を表明する
- － 個人的意見を替える
- － 攻撃的、後退的な態度をとることなく、マイナスの評価を与えてしまう
- － 気取ったように見られる
- － 友好的な方法を見つける
- － 身体的なふれあいを好む／嫌う
- － 無関心に見える
- － 友好的／反友好的な言葉で表現する
- － 社会的に率先した行動を自立的にとる
- － 先生やチューターに常に従う
- － ある特定の先生を好む
- － 注目の的になりたがる
- － 自制的な行動
- － 助けを求める
- － 率先した行動をとる
- － 間違い、手落ち、不備を認識する
- － 間違い、喪失、不可能などのことも含めて挫折に耐える
- － 特殊な状況において貢献することを認識し、力を発揮させる
- － 状況の特徴に合わせてふるまう
- － 予想外の場面に合わせてふるまう
- － 偽者だということがわかる
- － 説明と推敲を調整することが出来る
- － 状況から考えられる、別の解決方法をベースにしたふるまいに修正する

一般の業務適性

- － 正しく、自発的な振る舞いを保つ
- － 正確な仕事ができる
- － 予想された時間で仕事を終わらせる
- － 仕事の配属を手配する
- － 職務としっかり結びついた仕事の手順を整える
- － 仕事の完成に向けて材料や道具を揃える

- － さまざまな任務を引き受ける
- － 仕事に関する情報の調査を自発的に行なう
- － 自発的に任務を発展させる
- － 仕事を企画する

特別な業務適性

- － ひとまとまりの仕事を遂行できる
- － さまざまな仕事を連続的に遂行できる
- － 変化する任務に熱中する
- － 時間内に一定の取り決めの基に任務を遂行できる
- － 細かいマニュアルに沿って任務を展開する
- － 太まかなマニュアルに沿って任務を展開する

第3章

<5> 1節 教育に際しての基本的注意事項

特に、内容に関しては、各学校の特性によって、また、専門的な手法に応じて、この件に関するイタリアの規則に基づいた情報と知識を生徒に与えるよう推奨する。

<6> 2節 プロジェクトを進めるための基本事項

一部門に関するプロジェクトと、全テーマを統一して作成されたものとを比較して、そのガイドラインが示すものについて論議された「主要なポイント」について、述べてみよう。テーマは以下である。

1. 障害のある生徒に、学校と FP での人間形成の手段を取り入れながら、出来るだけ豊かで関係性の高い人間形成への助力を与える。
2. 障害のある生徒に、その才能の特徴、本来の能力、限界を自覚させるための個別の課程を行う
3. 自己評価を同時に認識しながら生徒の能力を上げてゆく
4. 教育的というより理論的な学習と～先生のレッスンや個別教室のヒアリングにより～文脈的な学習（実体験に基づく）と、2つの学習方法相互の関係と位置づけを考えながら結びつける。

以下に記載した4期間にわたる「個別教育計画」の準備から実践に至る主要な必須事項に関して、必要とされるポイントで最大限適切な指導が為されるように、関連している内容とともに例示している。

第1期 対象者への観察

参加者：活動グループ 時期：9月から11月

- ・ 生徒の認知特性や、コンタクトの方法を考慮し、クラス担任は、しっかりした育成活動を実践する教育計画を立案していく仮説に取り組む。
- ・ この項目は、経過分析と評価検討の第一段階として行われるものである

- ・ 経過分析の検証は、自立を最終目標としている；生徒の能力や興味、学外活動で役立つ能力の所持、生徒の認知特性や能力に合った教育、学外での人間形成の範囲

第2期 プロジェクトの立案

参加者：技術グループ 時期：11月から2月

- － PIAFSTの必要性の特定とCFPの初施行
- － 以下により作られたプロジェクトのグループとの意図された遭遇
 - ・ 支援的教育者 ・ 協会のサービス ・ AUSL ・ CFP ・ 教育機関の指導者
- － 以下により構成された支援者集団による計画の提案と発表
 - ・ クラスの助言者 ・ 地域の法人 ・ AUSL ・ 家族 ・ CFP
- － 技術グループの同意と決定
- － チームのケアプロジェクトの最終草案

第3期 プロジェクトの実践活動

参加者：統合チーム（教官、専門家、スクールコーディネーター、CFPの関係者）

時期：2月から数ヶ月（個別に定められた教育期間）

- － 場の準備、生徒への注意かけ、CFPのケアへの効果に関する説明
- － CFPケアの場での個別プロジェクトとの組み合わせ
- － プロジェクトの範囲で実現することを一人のCFPのチューターや学校の教官、責任者が、継続的に記録する
- － CFPが仲介または組織したチューターにより編集された研修評価表
- － CFPの教官や責任者のケアテストの修正
- － クラスグループの改編、プロジェクトの説明、クラスの仲間が経験した外部の仕事との比較（CFP、主に支援する先生、これまでの先生）
- － CFPケアの個人研修プロジェクトの学校の先生や責任者による編集
- － 研究の第二手段として、CFPチューターの指導によるモニター企業での研修
- － CFPのチューターや企業のチューターにより編集された研修評価表
- － 学校や、CFPの教官や責任者のケアテストの修正
- － ポートフォリオの随時作成。再構築、文書化、課程の評価の構築等に有効に活用できるように、テスト（生徒の「自分はどのようだったか、どのようであるか」という個人的な分析）と関係書類（学校やCFPの文書）の構成物に効果的な体験の一覧表を添付したもの。

第4期 プロジェクトの評価

参加者：技術グループ 時期：5月から7月

- － 現場実習で作成した製造品のプレゼンテーション
- － 職場体験の評価
- － 次の教育年度への提案

<7> 3節 統合カリキュラムへの介入方法

統合カリキュラムへの介入を実現する方法を列挙する。

- a) テーマ：主題の特定、カリキュラムへの教師の参加、グループでの役割分担とサブテーマの設定、調査作業の配分、材料や情報源に関する収集など
- b) カリキュラムの主区分：主題の特定、グループでの役割分担、主要なテーマの配分、たどるべき段階設定、調査の方法（インターネット、新聞、書籍）など
- c) 教室内グループへの参加方法：課程の実現方法、段階設定、提携者、生徒やクラスへの繰返、公平教育の型、生徒、チューター、コラボレーターの種別リスト

<8> 4節 個別の学校に許されている自由性

指導方法や生徒の習得期間の設定は、柔軟性をもって考えることが出来る。

法規（DPR99年3月8日 No.275）を参照し、学校が個別に自由採択できる事柄をあげると、以下のようになる。

- ① 個々の生徒に対する指導内容と学校活動の年間スケジュールとを融合させる
- ② 訓練の時間割と異なる指導上の時間割を採用し、残った時間分の有効利用を考える
- ③ 教室や小集団での主要プログラムを尊重し、障害児への個別教育課程を実行する
- ④ 同コースや異コースの他クラスや異学年の児童グループとの統合教育を実施する
- ⑤ 制度で定められた対象地域を越えた指導の併合を試みる

<9> 5節 自治体での個別施策と有効性の認知

・「自治性の高い地域で円滑に教育訓練を繰り返す、成果の一部として、その教育方法を報告することが大切である」

・推測するに、「個々の自治体において開発された教育方法は、組み合わせやすいものと組み合わせられないものが存在し、自治体同士の関係や、個々が持つ意義や信用性、資金面により援助金を得られるか否かが問題となるのである。

・短い課程を組み合わせる長くしたり、また、その課程を細かく分けることが可能である。各々はそれぞれが独立していて、価値があり、（コース終了の）認定証 or 証明証を出せること、（コース終了後、学んだことが）使えるものとなっていること（使用可能であること）を前提としている。

・これらの活動の中には、さまざまな教育組織があり、革新的な構造を持つクラスや、今までにない規律を定めている別組織もある。

・ここで用いられる方法論は特に、教材が児童の視点で考えられ、構築され、その団体に有効であった経験から出来たものである。「学習効果を上げ、個別教育に寄与すべきである」ことを規範としている

・個々の自治体にある学校で実施されている活動プログラムへ参加し続けることは、その学生が持つ誠実さや労働能力に対する信頼を、専門的な団体や資本（企業）に対して知らせていくことにもつながるのである。

<10> 6節 プロジェクトの詳細事例を記録する

徐々に困難性が増していくことが考えられるが、先例を見聞することによって、プロジェクトの内容により深く関わるができるようになるので、ある能力を習得するとき、その人が直面するであろう問題の本質を明らかにしておくことが重要である。

<11> 7節 取り組みに対する独自性の確保

観察方法や質問内容、授業などの方法（教壇での立ち方）と成果に関しては、独自性を保つために、市民に対して報告するのではなく、個々の学校や、CFPに報告することが望ましい。

<12> 8節 「評価」の正当性と平等性

一般的に「評価」というものは、個人を深く考慮し過ぎたり、話し合いによって変化したりするものであってはならない。すなわち、児童の性格や性質、考え方や行動などへ影響を与えるべきではない。

「評価」は、明白な成果や行動を現すものであることが必要であり、教師は生徒の劣っている部分にばかり着目するのではなく、高い評価を得られる前向きな部分も明らかにした上で、向上していくために必要なアドバイスや方法論を与えていかなければならない。

厚生労働科学研究

平成 18 年度厚生労働科学障害保健福祉総合研究事業

地域移行を推進していく施設内個人別プログラムの構築と
入所施設利用者および施設職員のホスピタリズム改善に関する研究

2007 年 8 月発行

編集 主任研究者 谷口 明広

印刷 (有) ケイデザイン
